大聖堂と聖母マリア

大聖堂の建設が相次いで行われた注目すべき時代(12-3 世紀)に、聖母マリアは、当時建設された「天界の女王の宮殿」すなわちノートル・ダム大聖堂において、女神として崇拝された。彼女はしばしば「バラ」、「バラの蕾」、「バラの花飾り」、「バラの園」、「バラの花輪」、「神秘のバラ」あるいは「最も聖なるバラの園の女王」として呼びかけられた。教会と花園とマリアの身体はすべて神秘的に同一のものであった。マリアは「再生の汚れなき子宮」であるとともに、教会(Lady Ecclesia)であったからである。異教徒の神殿と同様、ゴシック様式の大聖堂は女神の身体を表した。女神の身体はまた、自らの内部に、男性の神性の本質を内包する宇宙でもあった。

「 Barbaroi! 」の「バラ(Rose)」の記事

記事にあるように **12-3 世紀に大聖堂の建設**が相次いで行われたのです。それでは**その建設の主体者とは誰か？**　少なくともその背後にあったのは、**当時大変な財力と権力、そして卓越した建築技術を有していたテンプル騎士団に他なりません。**ノートル・ダム大聖堂で女神として崇拝されていたのは、ここでは「聖母マリア」となっています。しかしそれは表向きです。**テンプル騎士団が崇拝していたのはマグダラのマリア**です。**ノートル・ダム大聖堂で女神として崇拝されていたのは、実際のところはマグダラのマリア**なのです。**彼女が聖杯であり「王家の血統」を繋ぐ者であり、「性錬金術」の女性マスターだったからです。**